

令和5年度 第1回 津山市総合教育会議 議事録（要旨）

- 1 日 時 令和5年7月27日（木）午後10時30分～12時00分
- 2 場 所 市役所2階 第1委員会室
- 3 出席者 谷口市長、有本教育長、薬師寺委員、光岡委員、福見委員、土居委員
- 4 同席者
- | | |
|------------|---------------------|
| 企画財政部 | 針生政策推進監 |
| みらいビジョン戦略室 | 笠尾室長、金井参事、岡主幹 |
| 高等教育機関連携室 | 福田室長 |
| 教育委員会 | 森上教育次長 |
| 教育総務課 | 梅原課長、三谷参事、川口主幹 |
| 学校教育課 | 高岡課長、平井参事、石原参事、梶並参事 |
- 5 会議日程
1. 開 会
 2. 市長挨拶
 3. 議 題
教育委員会との公民連携について
①大学・高専・民間企業との連携事業について
②民間等プール活用について
③その他
 4. その他
 5. 閉 会

議事要旨

◆事務局

定刻より少し早いですが、皆さんお揃いになりましたので、ただいまから令和5年度第1回津山市総合教育会議を開会させていただきます。

私は本日の司会進行を務めさせていただきます、津山市 政策推進監の針生でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

会議を開会にあたりまして、谷口市長からご挨拶申し上げます。

◆市長

皆さんこんにちは。大変お疲れ様でございます。今年度の第1回の総合教育会議ということで、どうぞよろしくお願い申し上げます。委員の皆様方には、津山の次世代を担う子どもたちの健やかな成長のため、大変お世話になっており厚く御礼を申し上げる次第でございます。

暑さももちろんでございますけれども、梅雨が明けたとは言いましても線状降水帯等による災害で、特に中国地方は大変な状況でした。本市におきましては、うまくそこをかいくぐるという状況でしたが、私はレジリエンスの高い地域をしっかりと作っていきたいと思っておりますので、皆様方にもそういった観点からも、ぜひよろしくお願いを申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、このゴールデンウィーク明けからの5類への移行というものを実感をする社会情勢になってきていると思います。イベント等も増えてきておりますけれども、医師会等からお話を伺うところによりますと、やや感染者は増えているようですので、こちらはどうぞお気をつけください。学校生活におきましても、しっかりと対処して、この夏休みの間に落ち着きを取り戻してもらいたいと思います。

さて、本日の会議では、教育委員会と公民連携というテーマで皆様方に議論いただきたいと思っております。

公民連携というところでいいますと、ちょうど私が市長に就任をいたしましてから学芸大学、あるいはNTTグループと、ICT関係、例えばVRの技術を使うとか、そういった先進的な事業展開のあり方、調査研究を進めてきているというふうに自負しているところでございます。

その他も大学、高専、民間企業としっかりと連携できている、こういうふうに思っているところでもございます。こういったことを成果も踏まえながら、今後のあり方についても、ぜひご指導賜りたいと思っております。

また、民間等のプールの活用につきましても、議論させていただきたいと考えているところでございます。

皆様方の幅広い視野をもって、忌憚のないご意見を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆事務局

それでは議題へと移ります。

津山市総合教育会議運営要綱第3条に基づき会議の進行を市長にお願いしたいと思います。

◆市長

それでは着座のまま進めさせていただきます。まず、大学、高専、民間企業等との連携事業について、事務局より説明を行います。

◆事務局

市内の高等教育機関である美作大学、津山高専との連携についてお話をさせていただきます。1 ページ目から説明させていただきます。まず一つ目、包括連携協定を美作大学、高専と結んでおりまして、平成 20 年からスタートしております。津山市、大学、高専の経営資源を持ち寄って、少ない資源で大きな成果を上げようという目的で発足いたしました。取組み例として四つ挙げております。

1 点目が図書館蔵書の相互貸借と配送ということで、ほかにも図書館同士のセミナー等も行っておりますが、昨年度 1300 回、3 館の図書が移動しております。そういったことで、今後はお互いの蔵書も重複をなくしていきたいと考えております。

それから 2 点目、公開講座の共同広報や連携実施ということで、例えば美作大学では、食品ロスの削減、高専からは技術的なこと、あと中国語の先生がいらっしゃるの、そういったことを市民の方に広く紹介していただいております。

3 点目ですが、大学、高専間の授業の単位互換、教員の相互派遣などで、例えば、高専の学生 18 人が昨年美作大学で授業を受けて、単位認定されております。

それから 4 点目、高専、大学の教員・学生の派遣、津山職員からの授業への派遣ということで、大変お世話なっているところでございます。

それから二つ目の大きな困みでいきますと、具体的な連携事業、この三者連携によらない二者ということになるんですが、産学連携、人材育成、こういったものが柱になるかと思えます。産学連携につきましては、みらい産業課が津山高専技術交流プラザを運営しており、地域の企業約 120 社と、高専や市民の方の交流、技術交流などを行っております。右上にある写真が、そのプラザをベースにして行ったもので、2 点目にあるつやまエリアオープンファクトリーということに今繋がっております。

地域企業に就職してもらおうといいましても、まず親が知らない、子どもも知らないということがありますので、夏休みの間などに機会を設けて、地域の親子 1700 人ぐらいの方に参加していただいております。高専の学生にも、別日程のプログラムを組んで、65 名が地域企業に行っていたという状況です。

人材育成の 3 点目になるんですが、留学生交流・サポート事業ということで、令和 4 年度については高専の留学生 20 名、美作大学の留学生 1 名で、写真にあるような行列の参加や、今年度であれば、弥生小学校の方に高専の留学生が行って国際交流をしていただいております。右下の写真なんですが、これは高専、大学とは関係ないんですが、工業高校の生徒さんの中で、ものづくりコンテスト全国大会に出場される高校生の方がおられたので、津山ステンレスネットの会員企業の方が大会直前に技術指導を行ったも

のを載せております。

こういったことで、地域の学校と行政で、地域定住であるとか、技術力向上などに取組んでいるというのが今の状況です。

2枚目をご覧くださいませでしょうか。次に、今年度からの取組ということで、大学、高専には専門的な知見のある先生方いらっしゃいます。また学生の活力もあります。そういったものを取り込んで、行政課題や地域課題の解決に繋がることができないかということで、今年度からこの事業をスタートしております。

事業の目的の3行目なのですが、行政、市民が実践的な教育テーマを提供することで、実践的な教育活動を通して、社会で求められる人材を育成するとともに、地域への理解と愛着を深め、卒業後に地元定着する学生や関係人口を増やすことを目的に行っております。

教育委員会との関係であれば、2期待される効果の④、「実践的な地域人材の育成と若者の地域内就職の促進」ということを目的にやっております。具体的には、大きな4番の2個目の丸、「中山間部地域の小学校教員育成に向けたプログラムの実施」ということで、美作大学の児童学科の学生さんで、小学校の方に実践演習でたびたび訪問をしておるところなのですが、今年度、特に美作大学を卒業して地域の学校で働いてる方がいらっしゃるの、その方との懇話会を来月西小で開催する予定です。また、学校運営協議会が行う行事に参加したいということで、今、学校教育課、児童学科の方と協力しながらやっております。

他にも、この4の1個目の丸で、社会福祉学科の先生方、学生さん方とヤングケアラー支援をさせていただきます。なかなか行政だけでは、専門的な知見がありませんので、こういったところでお力を借りながら、行政課題を解決し、学生さんの力もつけていただくということを目指して参りたいと思っております。

そういったことで、美作大学、高専と取組を進めて参りますので今後ともよろしくお願ひします。

◆事務局

NTTグループ、東京学芸大学との連携についてご説明をさせていただきたいと思ひます。

まず、東京学芸大学との連携ですけれども、東京学芸大学とは令和2年7月に連携協定を結んでおります。今回は、令和4年度取組についてご紹介をさせていただきます。特にICTの分野で、東京学芸大学とは児童生徒一人一人の興味や関心を引き出し、意欲を高めるような学びを実現したい。また、先進技術を活用して、授業展開や学習環境についても研究したり、コンテンツの開発も行いたいということで取り組んできております。

一つ目、令和4年度取組といたしましては、VRを活用した取組ということで、勝

北中学校 2 年生に VR を活用した交通安全教育ということで、それぞれの生徒さんに実際に VR ゴーグルをつけていただきまして、歩行者の視点、運転する運転者の視点、また自転車に乗っている方の視点ということで、なかなか実体験できない部分の危険性について、体験をしていただいております。

この取組の際には、津山警察署からも視察の方が来られました。今後の展開ですけれども、そうした VR を使った安全については、警察と協力しながら、取組が進められればということで、お話を続けているところでございます。

また、今後ですけれども、今度は体育の教科教育でも VR の活用をしたいと考えております。こちらについては、特に ICT の活用、当初は普通教室の中での取組が多かったんですけれども、現在その活動範囲も、学校現場で広がってきておりまして、体育館や運動場も授業の中で、ICT を活用したいという流れに合わせまして、そこで使えるようなコンテンツ等も準備したいということを今年度考えております。

2 点目、こちらの方は^{ナビマ}navima の開発ということで、先ほども申し上げましたが、令和 2 年度に連携協定を締結した際に、小学校においては東小学校、それから中学校においては、津山西中学校をモデル校として選定をしております、特に東京学芸大学と凸版印刷と協力しながら、東小学校での課題である読解力の育成ということに関してコンテンツの開発を行ってまいりました。

その間、様々な試行錯誤を重ねながら、今回令和 4 年度から本格導入となりました navima の開発にも、ご協力をさせていただいております、東小学校では令和 3 年度から、また令和 3 年度の途中からですけれども市内の小中学校においてもトライアルをさせていただきまして、令和 4 年度には全市内の小中学校で navima を使った学習も始まっております。

これは、今年度についても引き続き実施をさせていただいてるところであり、国の GIGA スクール構想の一環としても、こうした ICT の活用は継続していきたいと考えております。

2 点目は、このペーパーの下の方になりますけれども、NTT グループとも様々な取組をしております。NTT グループとは、令和 3 年 6 月に連携協定を結んでおりまして、大きな目標としては、様々な教育データを活用したいと思っております。

学校で実際に授業であるとか、また学習以外の部分でも様々なデータが蓄積されております。この流れは今後もますます増加していくということが予測されておりますので、そうしたデータを一元的に集約して、可視化し、またそれを活用できるようなシステムの開発を協力して行っております。

今回資料には、そうした長期的な取組以外にも実証実験等も行っておりますので、文化庁の補助事業を活用しながら、万作の会のご協力のもと、文化芸術体験ということで、実際に VR ゴーグルを使っての体験を行っております。写真については小さなものにな

っておりますが、様子を含めて少しご紹介をさせていただいております。

NTTとも今後様々な部分で協力をし、そうした日々のデータの集約や、先端技術について、本市の児童生徒が体験できるようなことを続けていきたいと思っております。

◆市長

今2点の取組について、ご説明を申し上げたところでございます。

特に美作大学、高専との取組については、資料2枚目にもございましたような新たな補助制度をもって、しっかりと取組を進めているところでございます。

ICTについては、感染症の関係もあって、いろいろとやっております充実したところでもありますけれども、これも感染症前から考えていたことをしっかりと取り組んでいかなければと思っております、これから皆様方にご意見を伺ってまいりたいと思っております。

でもその前に、教育長からこれまでの取組について何かありましたらお願いいたします。

◆教育長

先ほど事務局から説明があった大学、高専、あるいは民間企業との連携ということで、現状についてもお話ができればと思います。

まず最初に大学との連携ということで、平成21年5月に津山市教育委員会と美作大学と連携協定を締結しています。教員の派遣、あるいは学生さんの学校への派遣はやっておりますけれども、今回のようにプログラム化したようなものはなかったものですから、このプログラム化は、私としては非常にありがたいと思っております。

今の県北の現状を考えると、もう教員不足です。新採用の配置もほとんど県南、あるいは県外からの配置です。従って、せっかく津山市で、5年6年教員をしても県南、県外へ帰任されるというような現状の中で、地元でしっかり育てるためのプログラム化ができたというのは、非常にありがたいなと思っております。

それとあわせて、今、学校現場が非常に複雑多様化しています。例えば新採用が現場に入ってきますけれど、年配の教員が非常に少ない現状の中で、子どもへの教科指導あるいは生徒指導も含めて非常に苦慮しているという状況です。

そんな中でも、学生時代から現場をしっかりと体験できる、経験できる、これは大きな財産になるんじゃないかなと思っております。学生時代から授業の経験、あるいは子どもたちの関わり方、そういうことに触れることによって、指導力の向上にも繋がっていくと思っておりますので、プログラム化されたということが非常に私はありがたいと思っております。

それから高専との連携ですが、以前からジュニアドクター育成塾という国の補助事業を高専で取り組まれており、それに関して、我々もしっかり子どもたちの募集を後押し

したりということはしておりましたけれども、今後の連携について、二つ考えていることがございます。

一つは、留学生と子どもたちとの交流です。先ほど弥生小学校の子どもたちとの交流ができたとの報告もありましたが、第三期の教育振興基本計画にも、留学生との交流を銘打っていますので、ぜひこれを広げていきたいと思っています。

二つ目は、先般オープンファクトリーが行われましたけども、中学生版のオープンファクトリーがなかなかないということで、津山市教育委員会の独自事業として今、民間の企業見学バスツアーをやっています。今年は8月3日に予定していますけれども、ものづくりの技術を高専とも繋げられる、そういうことを発展できたらなと思っているところです。

最後に民間との連携では、将来の子どもたちの選択肢、進路決定をする幅を広げるために、中学校時代に企業の中身を知ることが大切だと思います。以前から言っていることなんですが、子どもたちは、会社の建物はよく見ますけど、その中でどんな仕事をしているのか、何が動いているのかというのは見たことがない。そういう経験を、中学校の時代からすることによって、将来の選択肢を考える幅を少しでも広げていきたいと思っています。

そういう意味でも、私は民間の企業と繋がるというのは、将来の津山市の人口減少の歯止め、地元就職へという上では非常に鍵を握っているんじゃないかなと思っているので、ぜひこれからも企業と繋がっていきたいと考えております。特に令和元年に、教員も1週間ほど企業に研修に行かせていただきました。これをぜひ来年復活したいと思っており、これからもそういう企業との繋がりをぜひ期待をしているところです。

◆市長

では、順番に委員の皆様からご意見を伺いたいと思います。

◆教育委員

先ほど説明がいろいろとあった中で、私個人的には、高専との連携ということを考えていきたいなと思っています。先ほど教育長からお話のあった、留学生と弥生小学校の取組がテレビ津山で放映されていました。これを見て、私はとっても素晴らしい取組ができているなと感動いたしました。留学生の方も、非常に流暢な日本語で子どもたちと接してるというのはとても素晴らしいなと思うし、子どもも一生懸命留学生の話を聞きながら一緒に活動している。遊びを中心にしたものも含めて、これから授業もそういうふうに交流ができるのではないかなということを考えました。これがもっと広がっていけばいいなというのを個人的に思っています。弥生小だけではなくて、他の学校にも留学生との交流というものが広がっていくことを、期待をしているところです。

それからもう1点、高専との繋がりということの中に、8月号の広報に高専の公開講

座が載っておりました。その中で、いわゆる科学実験教室のようなもの、電子工作のプログラミングの基礎を学ぼうなどというような公開講座が出ておりました。こういうものが、中学校の子どもたちにもっと身近にできたらいいなというふうに思っております。

それからもう1点、12月ぐらいに行われているロボコンのコンテストに中学生が大勢参加しております。高専の学生と一緒に、もっと早い段階でそういう取組ができればいいのかなと思います。私が過去に中学校の校長をしていた時に、大勢の子どもたちがグループを作って、ロボコンに挑戦しておりました。それを見ながら、本当に子どもたちが興味を持つ取組が一生懸命できているなと思ってその中には、小学生の子どもたちも参加しておりました。保護者と同伴でしたけれども、小学生の子どもたちもそういうロボットコンテストに参加できるような知識を持ちながら参加できているのはとってもいい。

それから今後はですね、ドローンなど新しいものへの取組、それから私自身まだ勉強不足で十分ではないんですけども、eスポーツが、今後現場というか子どもたちの中にも浸透してくるのではないかなということを思っています。すごく流行ってきてる部分があって、のめり込んでも困るんですけども、そういうものも知識の中に出てきているのかなと思っております。

そういうことで、私個人的には高専との連携ということ現場と一緒に考えていけたらと思っております。

◆市長

ありがとうございました。

具体的に事例を挙げていただきながら、高専を取上げていただいてありがとうございます。まず留学生との交流については国際化という意味でも、やはり若い時から親しみといいますか、関わっていくということは大事なことだと思います。

また、広報誌をよくご覧いただきありがとうございます。広報誌の担当にも伝えておきますけれども、市民の皆さんに伝えることも広報の大切さだと思います。

今後は特に公開講座、それからロボコンも含めてですけど、ドローンとかeスポーツとか、こういうところもですね、高専としっかり連携していきたいですね。

実は、eスポーツを高齢者の方に体験していただきましたら、大変気に入っていただいているんです。おいでになった方に今後どうですかと聞いたら、100%また来ると言われる。結構よかったなというふうに思うんですけど、今の若い方はもう指導しなくても、逆によく知ってるかもしれませんね。ありがとうございました。

◆教育委員

私も今取組を見させていただいて、本当に様々な取組が上手く進んでるなというふうに感じています。過去、高専の交流プラザ、これは本当にかんりの地域企業、これ

には市内だけではなく県内も入りますから、かなり多くの企業に参加してもらって、高専と交流する機会を持ってもらうという取組では、本当に長く続く素晴らしい機会だなと思います。

その中から、地元の企業を知ってもらうということで、こういうオープンファクトリーに繋がったというのは、本当になかなか接点がなかったところが繋がっていったところで素晴らしい、重要だなというふうに思いました。

小さい頃には、近くの工場にちょっと見学に行つてというようなことは結構やっていたんですけども、今はなかなかそういった機会がない中で、非常に貴重な機会で、これがまた、中学生版の企業見学ツアーといったようなことにも繋がってるというのは、すばらしいなというふうに思いました。

それと学芸大、NTTとの連携事業も、本当にこの津山で最先端のことを実験しながら導入して取り組んでいけると、そういった機会が持てるというのは非常に素晴らしいことだなというふうに感じてます。

この狂言の時にも、勝北中学校に覗かせてもらったんですけども、なかなかこういった狂言というのにも接する機会がなかなかない中で、オンラインで丁寧に狂言とはというところから、日本の文化とはというのを実際に、場所は違いますが教えていただいて、さらにはVRを使いながら体験をしてみましようといったようなことで、本当に通常ならできないような体験ができる。

今後は益々こういったものが、どんどん進化していったら、本当にもうそれが日常のことになっていくんだろうと、未来も感じさせてもらえるような機会が津山にいながらにして体験できるというのは素晴らしいことだなと感じさせていただきました。

今ですね、大学とか高専とかとの連携も非常に順調に進んでいって、あと、更に民間企業、商工会議所等も巻き込んだ企業連携でのやり方というのもまた考えられるのかなと思っています。最近いいなと思っているのは小学校とかの放課後教室とかで、高校生がボランティアで教えに行くといったような機会を北小とかで作ってもらっていたりというのを聞きました。私は高校のPTAもさせてもらってますけど、高校の先生も非常にありがたいと言われていました。子どもたちにそういった、先ほどもありましたけど教える体験を高校生の時からできると。それはボランティアの機会でもありますし、小学生にとっても、そういった高校生から教えてもらったりといったようなことで、勉強にまた違う形で取り組んでいけると。そういったような形の連携というのは、誰にとってもメリットがあるんじゃないかなということで、教員を志すきっかけにしようという意味でも、連携を進めていくというのはいいことかなというふうに思います。

それと、そういう活動を進めるにあたって、今話題になっている、部活動の地域移行と、連携を重ねていくといったようなところも、何かのきっかけになればなと思います。体育会系だけでなく文化系のクラブというのもこの地域移行には入ってますから、そういったところで高専だったり美作大学であったり、また先ほどの地域ですね、商工会議

所等と連携しながら、進める取組ができてもいいのかなというふうには感じています。

具体的には、例えばコンピューター系のクラブがあったら、高専や地元の企業と連携しながら、地域移行を兼ねて取り組むというようなことも考えられるのかなと思ったりしています。

本当にいろいろな事業を取り組んでいただいて、それが今、うまく進んで行っていると、いろいろなことにまた様々取り組みながら、それぞれの先生方の意見や考えが出たりしてですね、いい形で前に進んでるんじゃないかなと感じています。

◆市長

ありがとうございました。

まとめていただく中では良い形で進んで。だからこれをもっと合わせてということが大きなお話の流れなのかなと思いました。

まず、高専交流プラザ、これをしっかり進めていきたい。この高専交流プラザとかの取組が、地域DX推進ラボが全国で31地域に認められたもののうち、中国地方では津山市と鳥取県だけが認められた。この高専の役割ってというのは大きいですね。それがしっかりと地域に根差しているってことは言うてくださったので、これを進めてまいりたいと思っています。

今まで美作大学、短大、高専というのはありますけど、高校生という視点を、今おっしゃられましたね。新たな連携先として、高校生ともっと具体的にやってみたらどうだということでしょう。ボランティアとかいろんなことをしていく中から、教員を目指すきっかけになる、これはいいご提案をいただいたんじゃないかなというふうに思うんですね。

それから、部活動の中でもコンピューター系とか、高専や企業にやってもらってもいいんじゃないとか、こういうようなご提案をいただいたところでありまして、ぜひ、またそういった取組を進めさせていただきたいと思います。

◆教育委員

連携事業、本当に効果的に行われてきているなと感じています。連携はとても大切なことで、必要なことと感じています。

学校の運営、教育課程の実施、学習指導等に、大学や高専、民間の施設やノウハウ技術を活用することによって、教育効果が高まり、また、学びの質が高まり深まることが期待できると思っています。

東京学芸大学、あるいは、NTT西日本と連携し、実証授業をしながら、先端の教育技術を獲得していると、今そういうふうには感じていますので素晴らしいことだなと思っています。

私はその中でも、美作大学との取組についてお話ししたいと思います。2ページ目の中

山間地域の小学校教員育成に向けたプログラムの実施についてです。教育長からプログラム化されて実施をされているということでお話がありましたが、その場その場じゃなくて計画的にきちっと実施されているということで、素晴らしいなと思っています。

津山市教育委員会と連携した、中山間地域の教育向上プログラム、大学としての目的は、教員を目指す学生の力量を育成する、大学で学んでいる理論知、学習知をもとに大学生の間に実践知も高めていくということだろうと思います。

現在佐良山小学校に、4年生の教職を目指している学生が21名行っています。佐良山小学校の先生方が、委員会活動やクラブ活動、会議をしてらっしゃる間に3、4年生の子ども、もしくは5、6年生の子ども、希望者ですけれども、その子どもたちの補充学習をしていくという取組です。

水曜日、金曜日の6校時目の放課後に行っている取組ではありますが、指導する学生が指導案を作って、大学でそれを検討して、補充学習をしています。そのことによって子どもたちに、学力、学習が定着していく。学生も自分の力量がついた、子どもとの関わり方がわかってきたと実感し、採用されて4月1日からすぐ実践できることであります。学校も大学も両方、それぞれの目的が達成できるという取組、こういう両者の目的がそれぞれ、きちっと達成できる取組がいいのかなと感じています。

そのほかにもスクールフレンド活動で、先生方の授業中の補助をしたり、特別支援関係の子どもへの支援をしたり、あるいは学習にちょっと困り感を持ってる子どもにそっと寄り添ったりそういう支援をしながら、先生方のノウハウを吸収していくという取組だと思っています。

また、放課後子ども教室で、地域へ出かけて行って、公民館等で子どもを支援するという取組も行っていると思います。目的をきちっと明確にして、そしてプログラム化して、両者が目的を達成できるという取組を現在も行っていますが、これからもこのような視点がとても大切だと感じています。

◆市長

佐良山小に美作大学の学生が出かけるということが、児童にとっても学生にとっても、学校にとってもいいことじゃないかとおっしゃってくださいました。大変ありがたいなと思います。これは先ほど教育長が、今回の取組としておっしゃってましたけど、これが地域にある大学、教育機関という強みになることになるんじゃないでしょうか。

人材育成として、ぜひこれは進めて参りたいと思います。ありがとうございました。

◆教育委員

私の所属が美作大学なので、いろいろ知ってることをお伝えしようかと思うんですけど、図書館もいつも毎日配達していただいてありがとうございます。学園祭には、自動車文庫の「ぶっくまる」もやってきて、そこで2日間ずっと子どもたちも、うちの学

生も活用させてもらってます。

それから公開講座は9月9日にあるんですけど、先日、教育委員の研修に行かせていただいた、秋田県の大館市がキッズニアみたいなこと、こどもハローワークみたいなことを取り組まれていて、それを大学でやってみようと思っています。

今、教育委員会の事務局にも協力していただいてチラシを配らせていただいたので、もしよかったら、公開講座の見学に来ていただけたらなと思います。3分野のうちの福祉は、私がすることになりました。

あとは、高専の方も今年も単位交換で受講に来ていただいています。

それから、一番下の市の職員派遣では、大学の福祉の4年生が、教育をはじめ、各課から来ていただいて、お話を聞いています。1コマぐらい市長が来てもいいんじゃないかなと思います。15回あって、それを皆さんで回されてるので。県立大学は県知事が1回来ています。昔は来ていました。内容は、市のアピールをしていただいたらいいんじゃないかと思います。

ここからは、ちょっと残念な話をしたいですか。卒業後の定着、それから実習生の受け入れで、うちの学生が、大体今2割ぐらいが公務員になるんです。今年ももっといと思うんですが、うちの場合は社会福祉士を養成しているんですが、津山市は社会福祉士枠がないので、誰も受けないんですね。津山市から他市町村に流出している。市役所に受かるぐらいなんでレベルの高い、学力もある学生なんですけれど、もったいない。以前、市長がなられた時に、人材のことで私のところに聞いてこられたことがありましたけど、なぜ福祉に定着しないのかってこの課題で、実はうちの大学、意外といい教育をしていて、学生も日本全国のいいところを見ているので、津山には魅力がある福祉現場が実はないんですね。福祉現場の底上げをしないと多分定着はないだろうと思っています。それはもったいないなと思っています。津山に生まれて、小中高と津山にいたのに、大学生で4年間学ぶと、もっと自分で学んだことを生かしたいってことで外に出てしまうのはもったいないです。社会福祉士、津山市の福祉にはないんですけども、加えて実習も受け入れがなくなってしまったので、学生は役場での実習がもうほぼ難しくなりまして、市の他の分野に行くと。実習というのはオープンデスクみたいなもので、そこで魅力を感じてもらえば就職するっていうのも、うちは考えているので、就職を見越した実習指導もしてるんですけど、そこがちょっともったいないです。もう3年生、4年生両方ともカリキュラムが変わっていけなくなってしまいました。市の現場の方も、社会福祉士欲しいなあ、ソーシャルワーカーが欲しいと言われてましたので、ぜひ市長に前向きに検討していただきたい。教育長とは、スクールソーシャルワーカーが欲しいなという話をしてるんですけども、スクールソーシャルワーカーも市として、何人か置いて、教育の先生方の負担を少し軽減できればいいかなと思います。

あとは、今朝いい話を聞いてきたので、向陽小学校学区の公民館で、今子どもたちを中学校と高校のお兄ちゃん姉ちゃんが、小学校の宿題を見てあげている。

子どもさんどうしてるのって言ったら、今週は公民館で預かってもらってそこで宿題を見てもらってとか、工業高校の子が工作で宿題の大変な工作を一緒にしてくれたりというのが昨年あったとか言ってました。

だから、そういった地域の中で、子どもたちが経験させてもらって、お互いに連携をちっちゃいところでいっぱいできているんだなあというのは今朝聞いて思いました。

◆市長

ありがとうございました。講義に私が行った方がいいと思います？

◆教育委員

卒業後の定着を考えるなら、来た方がいいと思います。

◆市長

それでは検討させていただきます。

それから公民館で、中学生、高校生とのそういう関わりというのは、いいですね。この取組をぜひまた、お知りおきをいただけるような取組にしたいと思います。

さて1点、卒業後の定着といいますか、今先生から地域の学校ということで教育の面でもいろいろお話いただきましたけども、福祉分野をもっと生かせるんじゃないかということでした。特に社会福祉士というライセンスをお持ちの方を、もっと活かしてあげようということでありまして。魅力ある福祉現場については、勉強させていただきたいと思うんですが、意欲ある福祉現場ってというのはどういうものなのかっていいですか、そういうライセンスをお持ちで、福祉で頑張ろうという方が、どういうところが魅力あると思われるのかということは、しっかりと研究させていただきたいと思います。そういう方ですね、津山に残ってやりがいを持って、ここで活躍をしていけるように考えていきたいと思います。ただ、社協等との関係等もありますし、しっかりとそれぞれの役割分担をしていかなきゃいけない部分もございますので、そこはまた調整していきたいと思います。ありがとうございました。

教育長からスクールソーシャルワーカーの話について、もしお考えがあれば、お聞きをしたいと思います。

◆教育長

現在は県で採用されていて、学校には例えば2週間に1回とかその方々が巡回するような形です。必要な時に必要な相談がなかなかできにくいというような状況があるので、しかも今学校現場はもう、20代30代の教員が小学校で言えばもう6割近くになっていて、若い先生方の対応がなかなか難しいという中で、専門家のアドバイスというのが非常に求められているという状況です。

◆市長

ご提言ありがとうございました。

それでは続きまして、民間との連携の一例といいますか、今年度新たな施策として取り組んでおります、民間等プールの活用について、事務局から説明をしたいと思います。よろしく申し上げます。

◆事務局

民間施設を活用した水泳の事業なんですけれども、実は令和元年に秀実小学校の児童を対象に実証実験を行っておりました。

その後、コロナもありまして、実証については少しできていない状況でしたが、学校のプールの授業も通常通りに再開した今年度、改めて対象の5校で実証実験を始めております。対象校についてはそちらの5校ですけれども、令和元年度の1校から、この5校に一気に対象校、また活用させていただく民間施設が増えた背景には、いろんな社会情勢の変化が大きいのかなと思っています。

まず自然環境でいいますと、以前には考えにくかった暑過ぎてプールの授業ができないというようなことであったり、日焼けが非常に厳しいということで、水着も上着も着るように環境の方も変化しております。

また、コロナで水泳の授業が中止された間は、学校の授業がないので、民間施設の児童・生徒の会員も減ったそうなんです。逆に授業が再開されると、クラブの会員も増えているということで、企業も学校の授業の応援をするということは、最終的にはその企業にとってもメリットがあるということで、本市以外でも、いろんな市でこうした授業のお手伝いをするのが、企業の側でも広がっております。

また先ほど教育長のお話にもありましたが、本市特有の事情かもしれませんが、先生方の年齢構成の関係もあって、こうした試行の際には、各クラブに指導員がいらっしゃいますので、指導員と一緒に授業を行うことも、学校側にとってのメリットとして考える部分があったということで、飛躍的に実証実験の学校が増えたのではないかなと思っています。

試行の内容については、それぞれのクラブ、例えばSTYの休館日を活用しての授業となっておりますので、回数についても、なかなか全般的に広げることができておりませんが、北小、鶴山中、西小、加茂小については、従来の学校のプールと、それから施設のプールを利用する形で、また南小学校については、すべての授業をアイマーレで試行するような形に取り組んでおります。

今後についてはこの取組の中で、メリットの部分それから検討すべき課題というのが出てくると思いますので、そうしたことを検証しながら、今後の姿を考えていく必要があるかなと思っています。感想についても、児童生徒や保護者の方、教職員にもアン

ケート等もさせていただいておりますので、こうした集計後のご意見についても、参考にしながら、今後の方向性を探っていければと思っております。

民間等プールの実証実験が進んだ背景というのは、従前に考えられなかったような環境変化ですので、こうしたことは、他のジャンルでも考えるのかなと、この実証実験始めた中で、担当として感じたところでございます。

◆市長

ありがとうございました。例えばこの民間プールの試行、水泳授業に民間施設を活用した試行ということにつきまして今説明がありました。ソフトだけでなく、今後のハードの維持管理という部分も含め、連携の試行をして勉強しているところでありますけれども、この取組につきましても、ソフトはもちろんでありますけどもハードも含めて、皆様方のご意見をお聞きしたいです。

◆教育委員

民間施設の活用ということでありまして、水泳授業ですが、私は、子どもたちの水泳技能の向上が一つの視点、プールの効果的な維持管理がもう一つの視点、さらに教職員の負担軽減に繋がるという三つぐらいの視点で試行して、その結果のアンケートを取ることですので、その結果を見て、今後も進めていただければと思います。ただ、ちょっと残念なのが、休館日だけということ、なかなかすべての水泳の授業に入り込めないという部分もあるというふうに思っています。

メリットとしては、先ほどからも話が出ていましたが、天候に左右されない、寒さ暑さに左右されない。それから、水泳技能の向上についてですが、私は南小がアイマーレでやっているところを見学に行きました。3年生、4年生に、インストラクター指導員が4名と、担任の先生で指導していました。普段学校で指導するにあたり1学級先生1人と監視役が1人で指導することが多いので、コース別に分かれても、指導をしきれない部分があるんですが、アイマーレでは指導者が多いので、コース別に分かれても、必ず指導者がついておりましたので、効果があると感じました。また、インストラクターは専門家ですので、先生方がその専門家の技術を見ながら、参考にできるのかなと感じました。

プールは、水質管理だけじゃなくて、虫が入って浮いていたり、木の葉が浮いていたり、あるいは休み明けですと、ものが投げ込まれていたり、安全管理が大変なんですけれども、民間の施設ですからそういうことがないということです。それから一年生は、一人一人安全管理で浮き輪をつけてやっているんですね。施設を使うだけではなくて、設備や備品も含めて使用ができるのかなと感じました。

デメリットとしては、移動時間が少しかかるのかなという感じも受けましたが、うまく運営をできる方法があればなと感じているところです。

◆市長

メリット、デメリットどちらもご提示いただき、ありがとうございました。メリットは、技術が向上する、天候に左右されなくて授業ができる。衛生面、安全面を感じられる。

デメリットは今は試行の段階ですけれども、休館日だけですべて対応できるのかということと、移動時間ということでございます。トータルでサポートさせていただきたいと思います。

◆教育委員

北小で見学させていただいた時どうですかと聞いたら、とてもいいですという感想をいただきました。

ただ、スケジュール的に難しく、冬も行けるねと簡単に言ったら冬は冬でやらなくちゃいけないスポーツがあると。冬はやらなくちゃいけないサッカーとかマラソンとかあるんですけど、1年間通じて、水泳の授業ができるというのはいいなと思います。

あと、全部の小学校が今行けてはいないんですけど、それこそ専門の先生に小学校でやる場合は来ていただいてもいいんじゃないかなと思います。指導者として、そういう民間との共同でということで、プールで指導する人が増えるので、コロナですっと3年間ぐらいプールの指導をしたことない若い先生方からすると、とても安心して授業ができるんじゃないかなと思いました。

やっぱりちょっと移動が、この炎天下で歩くのかと思ったらかわいそうだし、寒くなった時プール使えるねって言っても、濡れた頭で帰るのかと思ったら寒いかなと思ったり、そういったところが課題かなと思います。

◆市長

ありがとうございます。

トータルとしては、民間でいいことじゃないのかと、特にスケジュール的なものがいんじゃないかということですね。

ただ移動時間、やはり移動のお話ですね。一つ新しいお話としては、学校の方へ専門家の方に来ていただいて指導してもらったらいいんじゃないかなと、こういう考え方もあると思いますね。ありがとうございます。

◆教育委員

私は、加茂小学校の保護者に様子を聞きました。高学年になる子どもたちは専門的に指導していただいてよかったという声があって、あとは1、2、3年生の低学年の子どもたちで今まであまり泳げてない子どもたちが、そういうところでいきなり専門的な指導を受けて、ちょっと戸惑ったというような話も聞いております。後で私もいろいろと

聞いてみて、なるほどなと思うところがありました。特に、低学年の子どもたちには、本当に手取り足取り指導していかなきゃいけない部分があるのを、専門的な先生方の方で指導していただいた部分というのがあったのかなというふうに思いました。

それで、今回全体的に見て非常によかったなと思っています。

これをですね、多少時間かかっても、バス移動してでも近隣の子どもたちに広げていく必要があるのかなと思います。例えば加茂のプールであれば清泉小とか、そういうところまで広げていって指導していけばいいのかなと個人的には思っております。

それからもう一つは、回数をもう少し増やしてもいいのかなという思いもありました。

ですから、この試行、この取組はとってもよかったなというふうに私は個人的には思っております。そういう面で今後また広がっていけばいいなというふうに思います。

◆市長

委員もトータルとしてはいいんじゃないということですが、課題は移動ですね、けれども移動には具体的にはバスをと具体的におっしゃられています、バスを使うとあれば、加茂に限らなくてもいいんじゃないかということでした。近隣の学校にももっと利用してもらってというのもそれもまた一案だと思います。

また回数をしっかり増やしてはどうかというお話もいただいておりますので、貴重なご意見として承りたいと思います。ありがとうございます。

◆教育委員

私も維持管理ですとか、先生の負担とか、天候とか、トータル的に見たら、今後はこういう形になっていくべきなのかなというような気はします。

保護者の立場で行った方とお話をしますと、保護者としても専門的な指導をしてもらえるという意味では安心感があったり、ありがたいといったような、学校の授業の一環で、そういった取組をしてもらえるといいというようなご意見が大半でした。

コロナ禍でプールがなかった。泳げるようになるのかというような不安な面があったが、コロナ禍が明けて、水泳の授業できて、さらには専門的に指導してもらってというところでは、ありがたいという話は出ていますので、非常にこういったことは前向きに進めて、やってもらえればなと思います。

ただ、もう本当に先ほどからある移動の問題かなとは思っていますので、こういった新しい取組をするときには何かそういったことが出てくるでしょうから、そういったところを克服して、前向きに進んでいければなというふうには思います。

◆市長

ありがとうございます。

トータルでは、これはいいということでした。新しい取組をしようと思うと色々な課

題が出てくるから、その課題に対してしっかり対処するようにと。その課題は、皆さん移動時間をどういうふうに対応していくかでしょうかね。

ありがとうございます。専門的指導方法がいいですね。負担軽減につながるでしょうし、教育長、何か今皆さんが言われたことで何か意見がありますか。

◆教育長

今夏休みに入って、全国各地で子どもたちの尊い命が水の事故で失われているというニュースが飛び込んでいますが、私が一番思っているのは、水を克服する力、これだけではどうしても子どもたちに身に付けさせたいということです。

そのためには、プールの授業というのは、特に小学校には絶対必要だと思っています。ただ、その方法として、今、昔のように一つ学校に一つのプールがあってというようなことは、老朽化の中で、効率的なことをどう考えなきゃならないかということです。

ネックは移動時間ということですが、これはいくら言っても移動の時間は短くならない。今後の年間の教育課程の組み方について、当然、移動時間はあるんだということも前提として年間での教育課程を作っていくかと思えます。例えば、夏休みを少し短くしてでも授業日数を確保していくとか、そういうようなことも、別の視点から考えていかなきゃならないのかなということもあります。

◆市長

ありがとうございます。皆さん移動時間が課題とおっしゃられました。教育長として教育課程のあり方を打ち出していただいたと思います。確かに新しいことという課題が出てくるわけですが、それはまた皆さんのお知恵を拝借しながら考えていきたいと思っております。

民間施設を活用した水泳授業については総じて、皆様方からいい取組だろうとおっしゃっていただいておりますので、事務局も、そこは精査しながら、充実を図るような取組を考えてみていただきたいと思えます。

この水泳授業の試行について何かありましたらお願いします。もうよろしゅうございますか。ありがとうございました。

本日はこの2点を、皆様方にご議論いただいたわけですが、もう1点、これは義務教育ではないんですけども、本市と他の大学との連携事業等につきまして少しご紹介をさせていただきたいと思えます

◆事務局

ただいま市長からご紹介がありました、その他の大学と津山市との連携事業につきまして、早稲田大学及び慶應義塾大学との共同研究事業についてご説明をさせていただきます。

まず、早稲田大学との共同研究についてでございます。

この事業につきましては、令和元年度から継続をしているものでございまして、これまで4回開催をしております。内容といたしましては、本市の地域課題の解決と、交流人口、関係人口の創出のための高等教育機関の学生との連携事業を、同大学の地域連携ワークショップ事業として実施をしているものでございます。

昨年度はまちじゅう博物館構想、これは市内全体を屋根のない博物館ととらえまして、歴史・文化・自然・食などの津山市らしさを発見再認識をいたしまして、住民と行政が一体となって新たな魅力を創造発信していこうという構想でございますけれども、このコンセプトのもとで、この資料の提案の欄にございますような具体的な誘客施策についてご提案をいただいております。まちじゅう博物館構想の具現化の取組において、参考にさせていただいております。

次に慶應義塾大学との共同研究でございます。

こちらは、昨年度から津山市デジタル未来都市創造プロジェクトと銘打ちまして取り組んでおるもので、津山市スマートシティ構想実現に向けて、本市のデジタル社会の推進に必要な施策、特に、いわゆる18歳の崖の克服に向けた、若者の新規創業やIJUターンに資する取組、仕組みづくりについての共同研究を実施しているものでございます。

今年度は、学生を中心にアイデアソンをやっていこうという提案をしております、一昨日から慶應の学生が実際に津山に入っております、昨日今日と企業訪問をしております。何をやっているかということでございますけれども、昨年度の取組の中で企業課題について、若者が定着しない理由の中に、若者が今求めているクリエイティブな仕事がこの地域にないんじゃないかということがテーマになりまして、実際に企業に入ってきて、その辺の印象を慶應SFCの学生にワークショップの中で体験してもらいましたが、いやいや地元の企業の中にもそういうクリエイティブな業務がこれからどんどん広がっていく可能性はあります。そういうマッチングですとか、企業の経営課題について解決するためのプランに実際学生に関わってもらうというのが重要で、それも慶應の学生が外部から来て関わるだけでは面白くないだろうということで、地域の高校生にも実際に関わっていただいて、その企業の課題に触れていただき、こういうものを解決する手段を検討するというのを体験をしていただくことが大事だろうと。これを継続することによって、体験した方のコミュニティを作っていこう。これが慶應との共同研究の中ではテーマとなっております。課題解決のためのアイデアソンを今年は開催をしたいということで、秋に向けて今取組を進めておるところでございます。

いずれの大学との連携事業におきましても、市内の高校生との交流もワークショップを行っております、その中でも昨年度早稲田大学との取組におきましては、鶴山小学校の6年生の児童との交流の時間を持ちました。こういったことを通じまして、新たな交流人口関係人口の創出のほか、首都圏の大学生との交流が、地域の児童生徒の職業意

識への刺激ですとか、キャリア教育にも資する効果にも繋がるものではないかと、このように受けとめているところでございます。報告については以上でございます。

◆市長

その他の大学と津山市との連携ということで今ご報告を申し上げます。

私も実際に出させていただいて、意見交換をさせていただいておりますけども、面白い視点といいますか、ご提案をいただけることが大変ありがたいと思っております。

それでは、今日最後に皆様方から、これだけということはございますでしょうか。よろしゅうございますか。それでは皆様貴重なご提案をいただきまして、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いをしたいと思います。

次回以降のテーマといたしまして、特に力を入れております不登校対策、ひきこもり、いじめとか、少し集団生活になじみにくいかそういう方に対する支援についてですとか、あるいは、コミュニティ・スクールですね、来年度に全校にと思っておりますが、コミュニティ・スクールのあり方とか、それからよくご質問もいただき、学校の適正配置ですね、特に小学校ですが、また部活動の話にも触れていただきましたけれども、それぞれ取り巻く環境の変化、こういうことにつきましてまた次回以降、貴重なご意見をいただく場を持ちたいと思っております。ただ私ども、あるいは事務局でも気が付いていないテーマもあると思いますので、またそういった時には、ぜひ皆様から、ご指摘をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いをしたいと思います。

それでは最後に教育長からお願いします。

◆教育長

今日、総合教育会議第1回目ということでありがとうございました。

常々私も事務局にお願いしてるんですが、年3回はぜひ市長といろんな協議をしたいと考えておりますので、また引き続きどうぞよろしくお願いをしたいと思います。

さてコロナも大分落ち着いて、教育長の研修機会も増えて参りました。本年度は、全国の都市教育長会にも参加をさせていただきましたし、つい先日は出雲市へ教育委員の皆さんと一緒に中国地区の研修会もありましたが、どこの自治体も先ほど市長が言われたように、大きな課題というのは少子化、人口減少、これにどう対応していくか。体制整備もそうですし、不登校の問題もそうですし、多様な学びというそういうことがどの自治体でも大きな課題となっております。

まさに本市でもそういう課題を抱えておりまして、こういう課題を市長と一緒に共有できるというのは大変ありがたいなと思っております。いい方向へ進むことを期待をしているところです。

最後にですね、二つお話をさせていただきたいです。まず一点は、途中私も話しましたけれども、今市内では若い教員がどんどん増えています。20代30代の教員がもう6

割強です。おそらく来年は、7割に近くなるんじゃないかと思ってます。そういう若い教職員が子どもたちを指導する上で非常に不安な教職員も結構います。本年度もう教員を辞めたいという若手から、10人近く相談を受けるような状況です。

そんな中で管理職が一生懸命、いろいろ支えておりますけども、ここでやっぱり鍵になるのは私は学校運営協議会、コミュニティ・スクールだろうと思っています。今までの学校だけで教育をしようという時代じゃなくて、これからは地域で子どもたちを育てることに本腰を入れて取組をしていかなければならない時代だろうと思っています。

そういう点では、学校も悪く言えば責任感が強く、閉鎖的で、外部を入れないというような、何となく昔はそういう雰囲気があったんですけども、もうそれじゃもたない時代でありますので、ぜひ、今後コミュニティ・スクールが本当に機能するような、学校の行事に協力するというそんなものではなくて、子どもたちの学力をどう上げていったらいいのかとか、子どもたちをどう育てていったらいいのかを、学校と地域は本当に同じ土俵で検討するような、そんなコミュニティ・スクールをぜひ本市は作りたいなと思っています。これが一つ目です。

二つ目は、若い教員がどんどん増えてますので、今の教員の負担軽減についてです。何でもかんでも働き方改革に持って行きがちと私は思ってます。

いわゆる「教育の不易と流行」とよく言われますが、その不易が消えつつあるんじゃないかと危惧しています。

A IとかあるいはICTとかどんどん科学技術の進歩するのは、これは当たり前です。タブレットをコミュニケーションツールとして活用するのは、これはもちろん当然のことなんですが、それによって不易な部分が消えていってはいけないんじゃないかなと最近特に思います。特に若い教員にこんな話してもポカンとされたりするのですが、この「教育の不易と流行」を、またある機会には議論をしたいなと思っているところであります。

長々と申し上げましたが、大変ありがとうございました。

◆政策推進監

それでは4 その他でございますが、皆様から何かございますでしょうか。

～ 発言なし ～

特段ないようでしたら、次回につきましては第2回を10月から11月ごろ、第3回を1月から2月ごろに開催したいと考えております。具体的な日程につきましては、改めて調整させていただきます。

以上をもちまして令和5年度第1回津山市総合教育会議を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。